

掲 示 板

* 研修実施報告 ⑥ *

～特別研究「介護予防研究会」公開講座（平成20年11月20日開催）～ 介護予防事業プログラムの展開

本公開講座は、3部構成で実施されました。

受講生は、事務職に加え、保健師など専門職の参加もあり、総勢82名の参加がありました。

第1部は、特別研究「介護予防研究会」のこれまでの研究成果として、中間報告を行いました。

テーマは、第1班が、「認知症発症と生活習慣歴に関する疫学研究」について、第2班が、「先進事例から学ぶ地域主体の介護予防」について、それぞれ20分間の報告を行いました。

第2部では、保健師の職歴を有し、また長年教員として保健師育成に関わられ、地域看護における専門家である津村智恵子先生（甲南女子大学看護リハビリテーション学部学部長）から、「介護予防事業を企画する～企画のプロセスと評価～」について、第1部の中間報告を踏まえ、基調講演をいただきました。

本講演では、介護予防事業の企画における予算獲得の手法、Plan Do Check Actionのサイクルの重要性などについて、説明をいただきました。さらに、より実践に活かすことができるように、「転倒骨折予防事業」の企画を事例として挙げ、より具体的に、介護予防事業の企画のプロセスと評価について、お話をいただきました。

そして、第3部では、第1部と第2部を受けて、本研究会の指導助言者である今木雅英先生（大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科教授）がコーディネーターを務め、会場も交えた意見交換を行いました。

参加者の感想では、中間報告については、地域との連携の重要性を再認識した、今後の事業に活かしたいなどの声や、介護予防は、高齢者になってから取り組めばいいものではなく、早い段階からの取り組みが必要であると改めて認識させられた、さらには、保健師などの専門職の果たす役割や専門職と事務職との連携の重要性を再認識したなどの意見が多数寄せられました。

また、基調講演については、現状分析に始まり、具体的な企画手法が理解できた、また、予算獲得の手法、事業実施後の評価、そしてフィードバックも含めた介護予防事業の企画全般について、非常に参考になったなどの声が多数寄せられました。

中間報告する田中、高橋、山田、木下研究員



基調講演される津村智恵子先生



会場も交えた意見交換



【問い合わせ】 マッセ OSAKA 研究課 TEL:06-6920-4565

掲 示 板

* 研修受講者レポート ⑥ *

～海外研修雑感～

門真市福祉推進部保育園民営化推進担当 花城 勉

ある日突然上司から別室に呼ばれ、「ちょっとデンマークとスウェーデンまで研修に行ってもらおうと思うんやけど。」「はあ？」というやり取りから私の海外研修はスタートしました。

テーマは「地域福祉とまちづくり」。福祉大国の実態に迫り、施策反映の一助とするために2班に分かれて調査研究を行ったのですが、あまり身近とは言えない両国の情報収集がまず大変。何から手をつけたものかと悩みつつ、皆で議論を重ねた結果、我が班は両国の首都コペンハーゲン市とストックホルム市を中心に調査することに。

コペンハーゲン市役所（デンマーク）での研修風景



現地では、両市役所で福祉分野を中心に議会・税制度・環境問題なども含めた国と市の施策についてレクチャーを受け、また、デンマークではコペンハーゲン市の知的障害者施設、特別養護老人ホーム、グロストラップ市の森の幼稚園、スウェーデンではストックホルム市の高齢者住宅、高齢者デイケアセンター、リーディング市の野外保育学校といった福祉実践の場を見学したのですが、とにかくスケジュールがハード。何とか緻密とは言えない頭に叩き込み、必死でメモを取りつつ、時間は飛ぶように過ぎていきました。

しかし、担当者や利用者の人々に直接話を伺い、生の現場を見ることで、日本での事前調査での疑問が氷解し、驚き、納得することが非常に多く、正に百聞は一見にしかず。個人的には、「個人の尊厳」や「自己決定・自己責任」を重視することが徹底されていて、これを保障するためにあらゆる制度設計や施設運営がなされていること、施設長の権限が強く、柔軟な運営ができる一方、伴う責任も大きく、効率性や透明性の確保がかなり強く求められていること、利用者の満足度が高く、行政に対する安心感・信頼感が強いことなどが特に印象に残っています。

歴史・文化・国民性の違いなどから北欧式の制度をそのまま日本で実施することは難しいですが、そこに至る考え方や手法は今後自分自身が職務に携わっていくに当たって非常に参考になるものだと思います。

また、公式訪問以外の時間はとにかく街中を歩き回りました。当然、美しい街並みや風景にも目を奪われたのですが、例えば、段差解消や点字表示といった街のバリアフリーはそれほど重視されていないことや、夕方早くから帰路につく人が多く、ワークライフバランスが保たれているさまなど肌で感じる事ができ、現地を訪れる意義はこの様なところにもあるのではと感じました。

色々と得るものの多かった今回の研修は、府内の市町村の様々な分野で活躍されている素晴らしいメンバーと出会うきっかけともなりました。研修中は朝から晩まで一貫して熱く議論を交わし、そこから多くのことを学ぶことができました。今後ともこの出会いを貴重な財産として大切にしていきたいと思います。

最後に、今回の研修を通じてご指導、ご助言を賜りました野村先生を始め、現地研修でお世話になった皆様、研修生を常に支えていただいたマッセ O S A K A の皆様、その他お世話になったすべての皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

野外保育学校（スウェーデン）での研修風景



【問い合わせ】 マッセ O S A K A 研修課 TEL:06-6920-4567